

■ OnAir 3000 ユーザーレポート

喜多方市喜多方プラザ 様

OnAir 3000

喜多方 **プラザ**

大ホールに続き小ホールにも OnAir 3000 を納入



喜多方プラザ文化センター
音響担当 森高 一裕

喜多方プラザは、1983年に開館した多目的ホール。小ホールは、会議からパーティーまで使われるフラットなスペースとステージを持つ空間です。2012年の改修工事で、大ホールと同じOnAir 3000を中心としたシステムを導入しました。

小ホールのシステム選定

これまで小ホールは、客席前方におかれた簡易PAシステム(パワードミキサー+2SP)に設置されたCDカセットとマイクを利用者が使うシステムと、調整室に設置したミキサーにパッチし音響調整の技能を有する技術者が使うシステムと2つに分かれていました。簡易PAシステムは、正に誰でも使う装置で、仕出し屋さん・熟年の会合・会議等あらゆる催しで使われ、年間利用時の稼働率95%は越えていましたが、反対に調整室の装置は年間数%にとどまる利用率でした。そしてこの2つのシステム共用部分は、WLマイクのハンドタイプ送信機だけだったのです。第1期から続いている改修のテーマは、「高音質」「操作性の統一」「可搬性」「メンテナンス性」。調整室のメインコンソールは、1期大ホール改修工事で導入した録音卓と同じOnAir 3000で決定していました。

しかし、ここでネックとなったのが「簡易PAシステム」です。設計当初はこれまで同様、別のシステムで検討されていましたが、それでは一番需要の多い利用に改修のメリットが反映されません。

簡易PAシステム

「簡易PAシステム」の問題は、OnAir 3000モジュール仕様+D21mを使うことで解決しました。2モジュール12フェーダーを縦型にラッキング、2マイク入力・2ステレオの入カコネクタとCDMD等とともに1ラックにまとめ、今までと同じ状態で使えるようにしたのです。アサインモジュールとディスプレイをラック上部開閉部内に設置、普段は隠れた状態で、設定時のみ扉を上げて利用する方法をとりました。簡易PAシステムの12フェーダーは、マイクx2・WLマイク(調整室設置)x2・CD・MD・カセット・ST入力(持込等)x2+グループマスターx1がセットされ、フェーダーを上げれば利用できる状態で客席前部に設置されています。また、このラックは移動可能で、客席後部・舞台での利用も可能、接続もEthernetとMADIの2本だけという簡易さで「可搬性」も満たしています。調整室のOnAir 3000ラック、D21mラックもそれぞれ移動可能で、舞台・客席での利用が可能となっています。OnAir 3000で統一したシステムにしたことで、機器や操作性の統一が実現、誰

もが使える高品質の音響システムとなりました。

運用

高品質な「簡易PAシステム」は、見た目がずいぶん変わりましたが、利用者には割とすぐに受け入れられました。使用法もこれまでと差がなかったせいもありますが、音質が良くなったことでの影響も少なくないようです。コンソールが客席と調整室で同じ運用が可能で、労力の軽減も実感します。また移動卓としての使用にも好評を得ています。大ホール改修時に導入した音声ネットワーク「RELINK」は、現在大ホールPAコンソールとレコーディングコンソールそして小ホールの3台のコアが繋がった状態となりました。今では小ホールの録音を大ホールで可能とし、大ホールの運用をモニターしつつ小ホールのミックスが簡単に実現しています。

